

「室内植物—是天然的保健医生」

王 劍 編著

変形B5版, 188ページ, 28.00元
(朝华出版社, 2008年8月)

今夏、中国の成都から西双版纳(シーサンパンナ)に向かう“国内線”に搭乗する機会があった。成都の空港は一度チェックインすると、やる気のなさそうなカフェ1軒を除いて飲食店がないため、仕方なしにゲート付近のお土産屋さんを徘徊することになる。そんな旅行客向けの売店でこの本を発見した。すぐ横にはファッション雑誌や中国式健康術の本が並んでいた。

さて、この本は室内で栽培する植物に関するもので、特に室内空気中の有害汚染物質の除去に効果があり、健康増進に有益であるという主旨で構成されている。編著者の王剣氏は東北林業大学・植物学博士。専門書ではなく一般向けの教養書なので、記述内容に対する根拠(論文の出典)は明記されていないが、個々の植物がどんな有害汚染物質の除去に有効かについて詳細に記述されている。例えば、「アロエ1鉢は9台の空気清浄機に相当する」、「吊るした蘭は空気中の一酸化炭素を95%、ホルムアルデヒドを85%吸収する」、「サボテンは室内塵やコンピューターの電磁波を吸収する」など、写真入りで解説されている。そして結論として、室内に緑色植物を置かねばならない10大理由を挙げ、要約すると「ホルムアルデヒドやベンゼンを吸収」「室内塵や微生物を除去」「温度と湿度を調和する」「電機製品の電磁波を吸収」「タバコの煙や調理臭を除去」「マイナスイオンを発生」「目の疲れ、精神的ストレスを緩和」「作業・学習効率を高める」「二酸化炭素濃度を下げて睡眠を改善」「植物由来の揮発性有機化合物が精神を安定化」となる。

室内環境における緑色植物の役割については、科学的評価が定まっているとはいえない。したがって本書の記述内容の是非を論評するつもりは毛頭なく、この本が出版された背景・意味を抽出してみたい。その背景には中国におけるシックハウス問題がある。都市部では中・高層マンションの建設ラッシュであり、高所得者の購買意欲も高い。ただし日本とは異なり、住宅の内装は入居者の好みで施工するため、同じビル内でも住居によって内装仕様は多種多様である。また入居者自身がホームセンター等で塗料や内装材を購入して施工することもあり、化学物質の放散が多い建材を使用するとシックハウス問題が発生する。建材面からの対策は難しく、入居後に居住者自身でできる対策技術のニーズが高い。そこでこのような本が登場するわけである。シックハウス問題に関心があるのは一般の居住者であり、自ら行なえる対策法として「室内植物」なのである。尚、ついでに汚染物質としてホルムアルデヒドとベンゼンが重要視されていることも本書から伺うことができる。

筆者は20年来、中国の空気汚染問題に関わり、現在は瀋陽市環境保護局と室内空気清浄技術の開発を行っている。優秀な通訳のおかげで中国語は全く話せないが、同じ漢字文化ゆえ、本は読めるのである。搭乗時間が短く感じたのは言うまでもない。

(東海大学理学部化学科准教授, 慶應義塾大学産業研究所招請研究員 関根嘉香)

